KOTO 取扱説明書

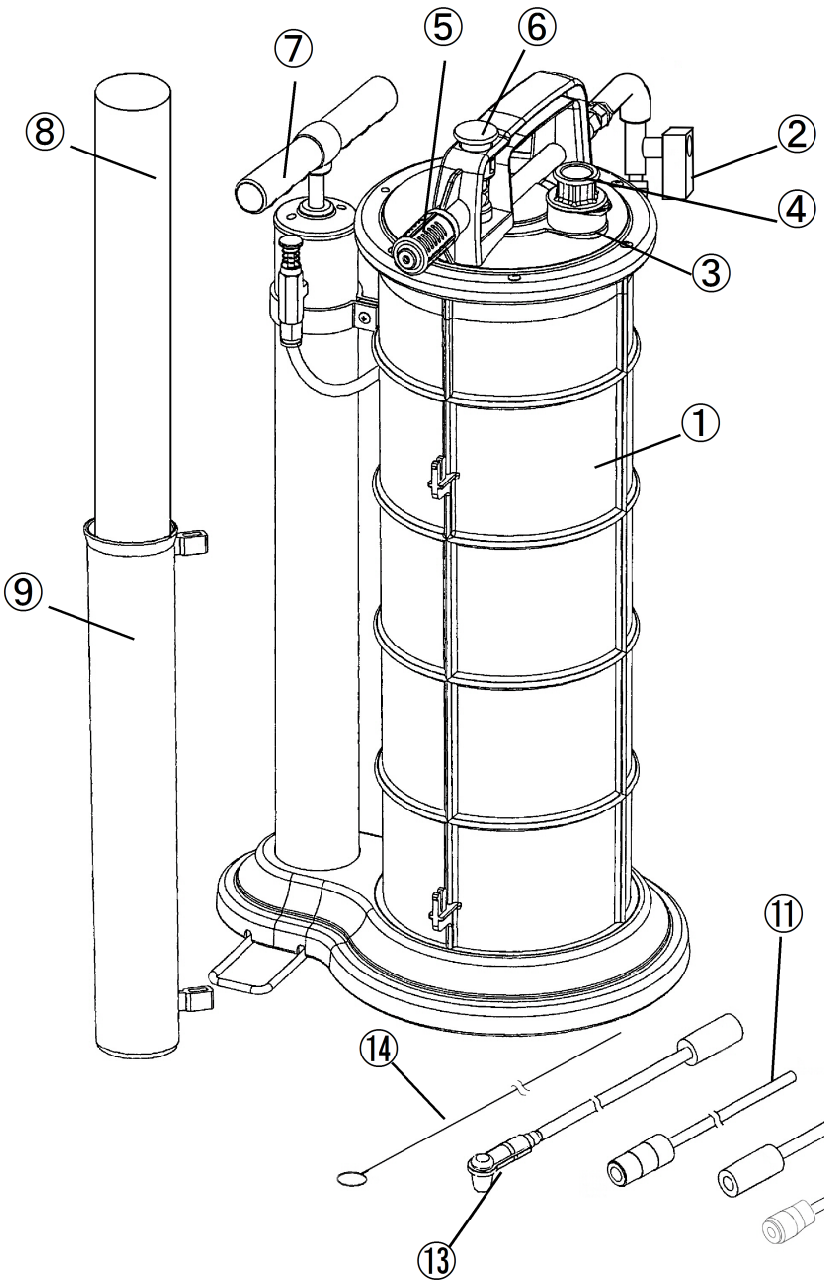
IFE-900

〈抜取専用〉エンジンオイルエキストラクター

※この度は KOTO製品をお買求め頂きまして誠にありがとうございます。

※ご使用前に必ず本取扱説明書を必読して頂いてからご使用下さい。

～各部名称～



部番	品名
①	本体ASSY
②	エアーコック
③	排出口
④	ノズル差込キャップ
⑤	マフラー
⑥	始動ボタン
⑦	手動ポンプ
⑧	収納延長パイプ
⑨	ホース収納筒
⑩	メインホースASSY
⑪	φ6ホースASSY
⑫	φ4ホースASSY
⑬	ブレーキ用ホースASSY
⑭	ガイドワイヤー
⑮	ストレートエアープラグ

※上記の各部名称は説明用に表記したものです。
表記されていても部品出荷の出来ない部材もございますのでご了承下さい。

～注意事項～

※本製品は車両用のエンジンオイル・ミッションオイル・ブレーキオイル等の吸引用機材です。
（ガソリンの吸引は行わないで下さい。）

※エアーの圧力は0．7MPa～1．2MPaの範囲でご使用下さい。
規定値以上での使用はタンクの変形や故障の原因となります。

※本製品はタンク容量が一杯になると自動で止りますが、安全の為作業する車両1台毎にタンク内のオイルを排出作業を行ってください。

※オイルが高温の状態で吸引すると変形する場合があります。
（出来る限り50℃辺りで作業して下さい。）

※安全の為、ガソリン等の発火物質、危険化学物質、毒物等の吸引は行わないで下さい。

※本製品はプラスチック材を多数使用していますので、落下等の衝撃を与えないで下さい。

※本製品をメンテナンス以外に分解改造を行わないで下さい。

※本体、ホース類を保管する場合は、直射日光、高温、低温、多湿、雨風が当る場所には置かないで下さい。

※使用後はタンク内の液体を排出、洗浄、清掃を行って下さい。

※使用方法以外の作業は車輌整備書をご確認の上ご使用下さい。

※本体側面に張ってある目盛りは目安としてご使用下さい。

※本製品を傾けたり揺らして使用しますと、『⑤マフラー』から吸引した油が吹き出る恐れがありますのでご注意下さい。

※国産車は外国車に比べると、レベルゲージの内径が小さくφ4㎜のホースを繋ぎ使用する事が多いと思われます。
負圧を利用しての構造では吸い込み量が決まってしまうので、少しでも吸い込み量を増やす為に肉薄のホースを使用しています。
したがって下記事項を注意しながらご使用下さい。

※Φ4ホースはメインホースやφ6ホースに比べるとかなり作業スピードが劣ってしまいます。

※使用状況にもよりますが、肉薄ホースの為劣化の進行が他のホースにと比べると早くなってしまいます。

～使用前に～

1.製品を箱から取り出し、セット部材が揃っているかご確認下さい。

2.『①本体』に『⑧、⑨ホース収納筒』をセットして下さい。
筒はホース類をまとめて収納する物です。
不要や邪魔の際は外してご使用下さい。

3.エアーを接続します。（圧縮エアー使用時）

4.適度なオイル温度で吸引作業を行ってください。（高温の場合タンクが変形してしまう恐れがあります。）

～使用方法～

※エンジンオイル・ミッションオイル抜取り

1.『⑩メインホース』を『④ノズル差込キャップ』に差込ます。

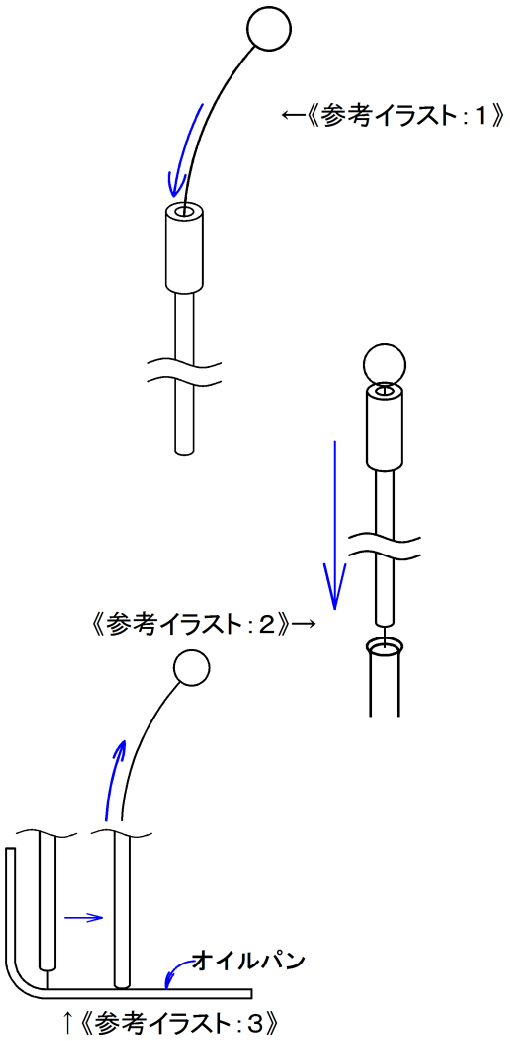
2.レベルゲージ差込口に差込むホース（⑩. ⑪. ⑫のいずれかのホース）に『⑭ガイドワイヤー』をゴムのノズルが付いている方から入れます。
（⑫のφ4ホースはどちらからでもかまいません。）
（参考イラスト：1参照）

3.ガイドワイヤーを入れたホースをレベルゲージ差込口から入れます。
（参考イラスト：2参照）

4.底付を確認し、ホースを押さえながら、ガイドワイヤーだけ抜きます。
（参考イラスト：3参照）

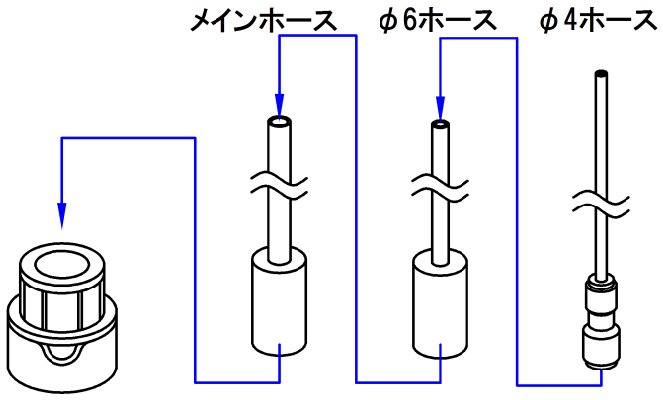
5.差込んだホースにメインホースを取り付けます。

6.『②エアーコック』をONにし吸引を開始します。
始動しない場合は『⑥始動ボタン』を押します。

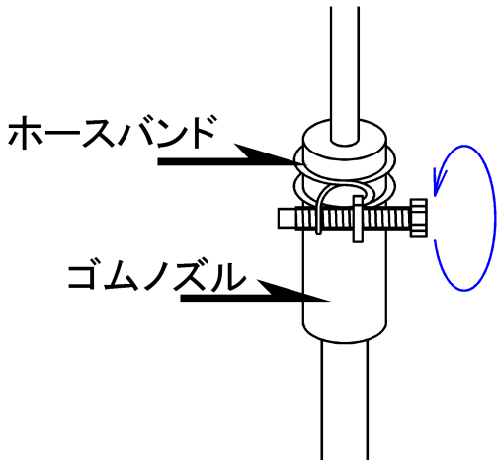


※ホースの繋ぎ方※

- ホースは『⑩メインホース』に『⑪φ6ホース』を繋ぎます。
- 『⑫φ4ホース』を使用する場合は『⑪φ6ホース』の先端にφ4ホースの接続アダプターを差し込んでご使用下さい。
（右イラスト下段参照）



※使用に伴いホースが劣化等しゴムノズルとホースとの隙間が明き、エアー漏れが伴う場合がございます。
その際にゴムノズルに付けて使用下さい。（下記イラスト参照）



※φ4ホースはφ6ホース使用時より吸引量が落ちる為、作業時間が長くかかる場合があります。

※ブレーキオイル抜取り

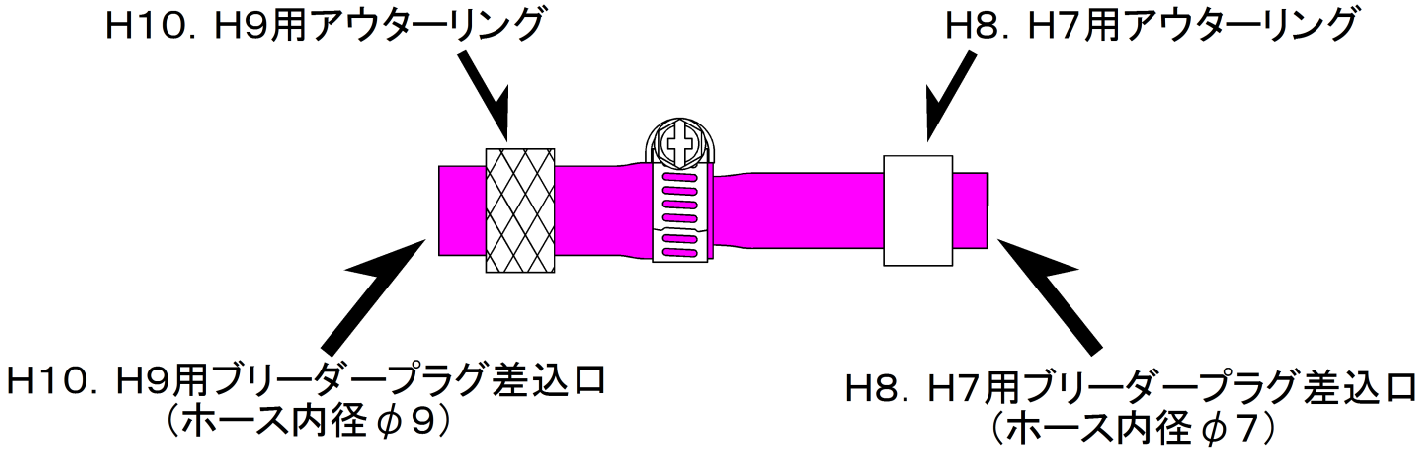
～エアープラグ使用時～

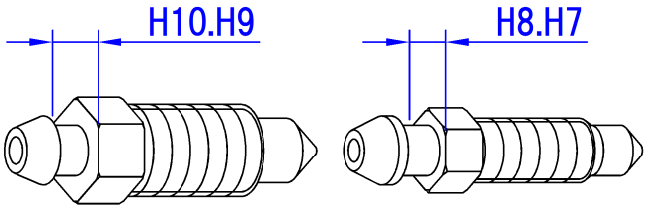
1.『⑬ブレーキ用ホースASSY』を『④ノズル差込キャップ』に差し込みます。
長くしたい場合は間に『⑩メインホース』を繋いで下さい。

2.エアープラグをブレーキ側のブリーダーに差込ます。

3.『②エアーコック』を開き吸引して下さい。

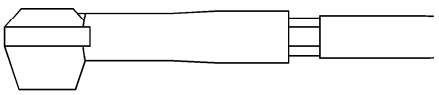
～ストレートエアープラグ使用時～



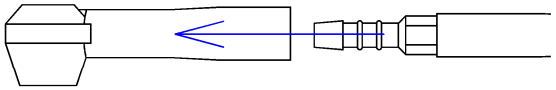


↑エアープラグ寸法確認箇所↑

①

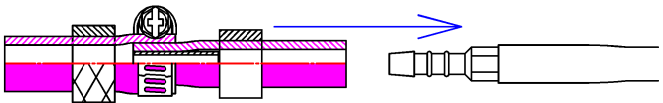


ホースASSYに接続されている
エアープラグを抜取ります。



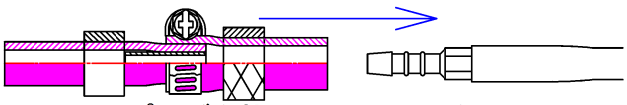
H10．H9の
プラグ使用時

H8．H7の
プラグ使用時



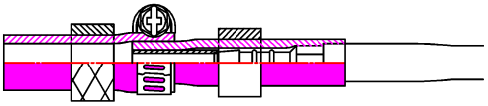
エアープラグを抜取ったホースをH8．H7
側の差込口に差し込みます。

②

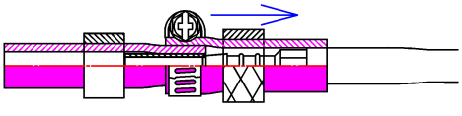


エアープラグを抜取ったホースをH10．H9
側の差込口に差し込みます

③

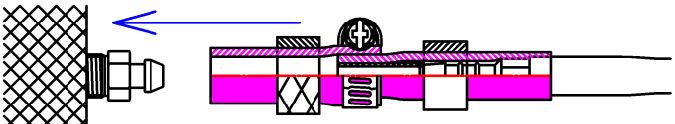


接続を覆う様にセットします。
（ホースまで覆う事でエアー混入を防ぎます。）

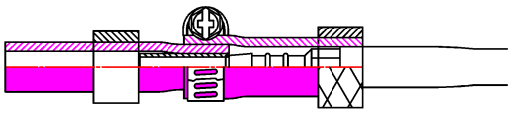


接続を覆う様にセットします。
H10．H9用アウターリングをスライドさせます。

④

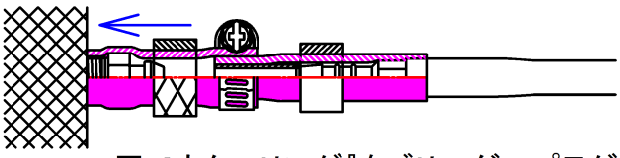


指先で廻る位に緩めたブリーダープラグに『H10．H9差込口』を差し込みます。

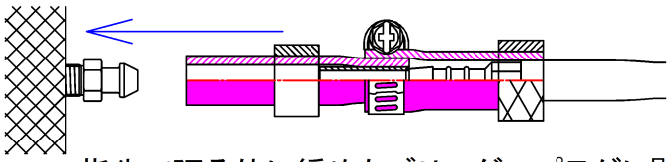


リングをホース先端まですらします。

⑤

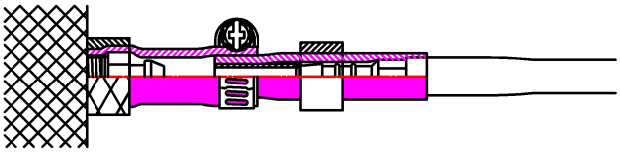


『H10．H9用アウターリング』をブリーダープラグと重なる様にスライドさせます。

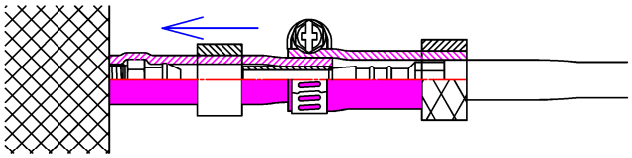


指先で廻る位に緩めたブリーダープラグに『H8．H7差込口』を差し込みます。

⑥

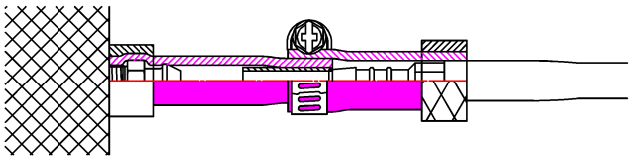


アウターリングがブレーキ本体にピッタリと当る様にセットし、ブリーダープラグを廻し（ホースごと）引き抜き作業を行います。



『H8．H7用アウターリング』をブリーダープラグと重なる様にスライドさせます。

⑦



アウターリングがブレーキ本体にピッタリと当る様にセットし、ブリーダープラグを廻し（ホースごと）引き抜き作業を行います。

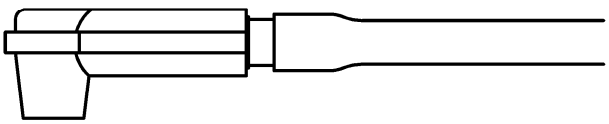
◇ストレートエアープラグ使用上の注意事項◇

アウターリングがスライドしにくい場合がありますがその際は廻りにオイル等を塗布して頂くとスライドしやすくなります。

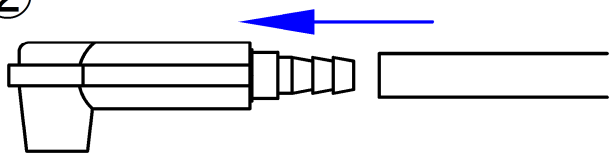
～ホース使用時～

◎エアープラグ・接続アダプターを抜いたホースをそのまま使用します。

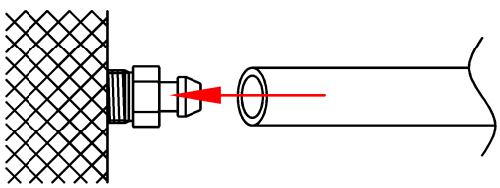
①



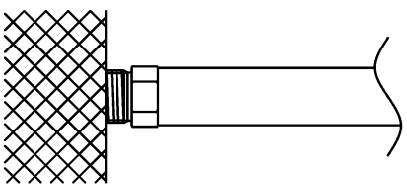
②



③



④



プラグの6角寸法によりホースを奥まで差し込んで下さい。

～エアー抜き作業時の注意事項～

・本製品に限らず負圧を利用してのエアー抜き作業ではエアープラグのネジ部からエアーが構造的な問題で多少は入ってしまいます。（参考イラスト4参照）
少しでもネジ部からのエアーを防ぐ為に、『ストレートエアーノズル』を組み入れておりますが、100%止まる物ではありません。

・吸引したオイルはタンク一杯まで入れるなど、タンクを倒す等により、エアー排出口から吐き出す恐れがありますので、1台作業が終了するごとにタンク内のオイルを排出作業を行ってください。

・ホースは耐油性を使用していますが、使用状態等により劣化が早く進む場合があります。
又、ホースは傷が付きやすくなってますので取扱にはご注意下さい。
（本製品は消耗品です。）

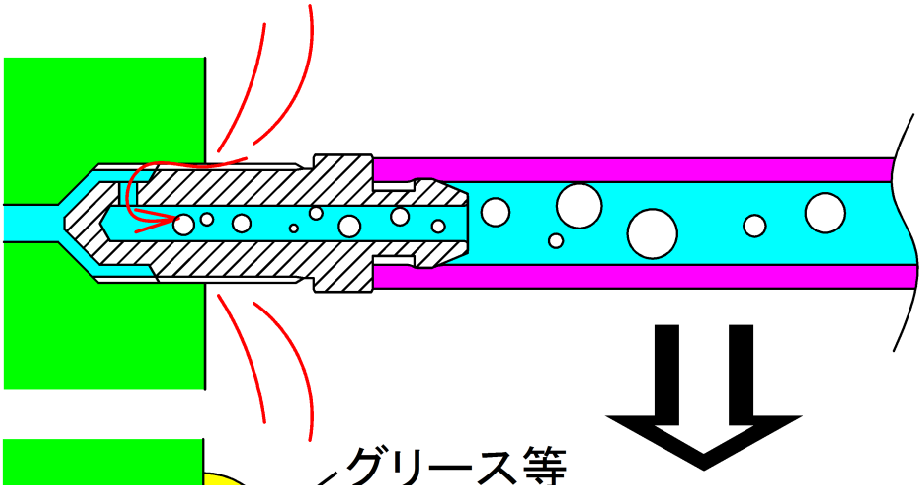
・エアー圧力は0．5MPa～1．2MPaの範囲内で使用して下さい。
特に高いエアー圧力で使用するとタンクの変形や故障の原因となります。

・二輪車及び自動車のブレーキオイル専用機器です。
それ以外の用途目的には使用しないで下さい。

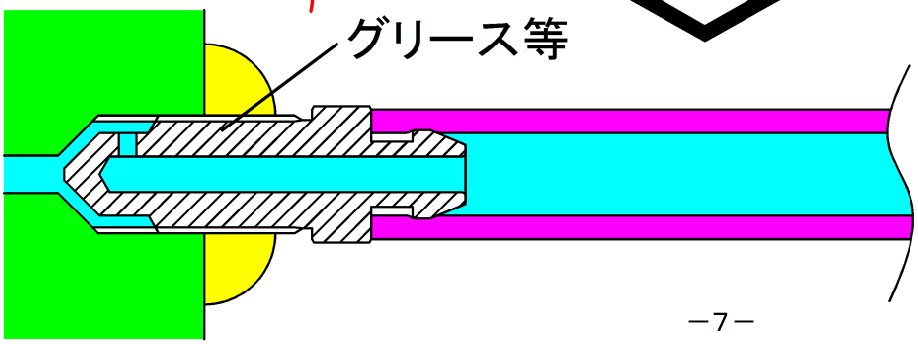
○本製品はブレーキエアー抜きの補助工具です。

○ブレーキ制動は重要保安点検ですので、最終確認は必ず人の手によりエアー抜きの確認作業を行って下さい。

○負圧式のエアー抜き作業時、エアーが混入した状態（エアー抜きが完了していない状態）が続くのは、ブリーダープラグのネジ部からエアーが流入している為です。
ネジ部の廻りにグリースを塗布して頂く事で、ネジからのエアー流入を防止しする効果があります。《参考イラスト5参照》



《参考イラスト4》



《参考イラスト5》

※手動ポンプ使用方法

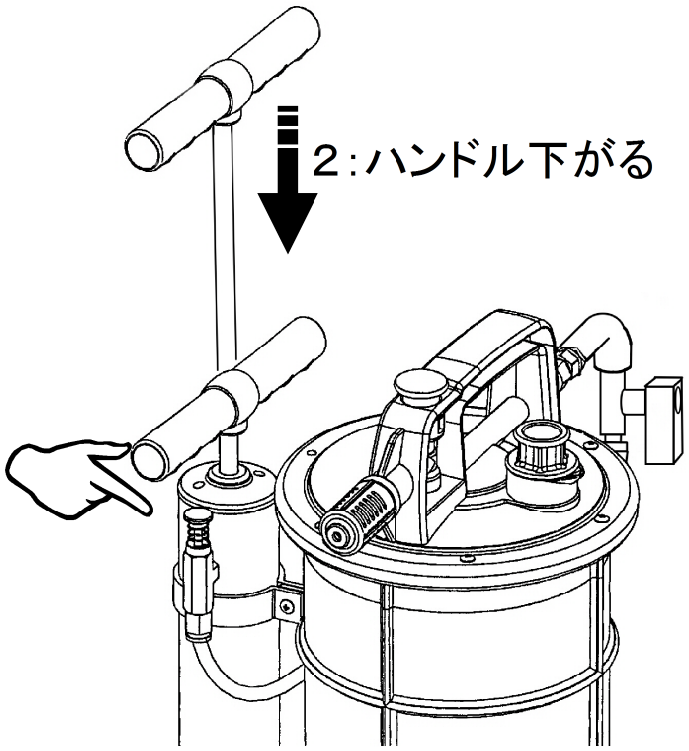
1.エアー差込口に『⑦手動ポンプ』に繋がれているカプラーを接続します。

2.『②エアーコック』をONにします。

3.ポンポを上下させ吸引させて下さい。

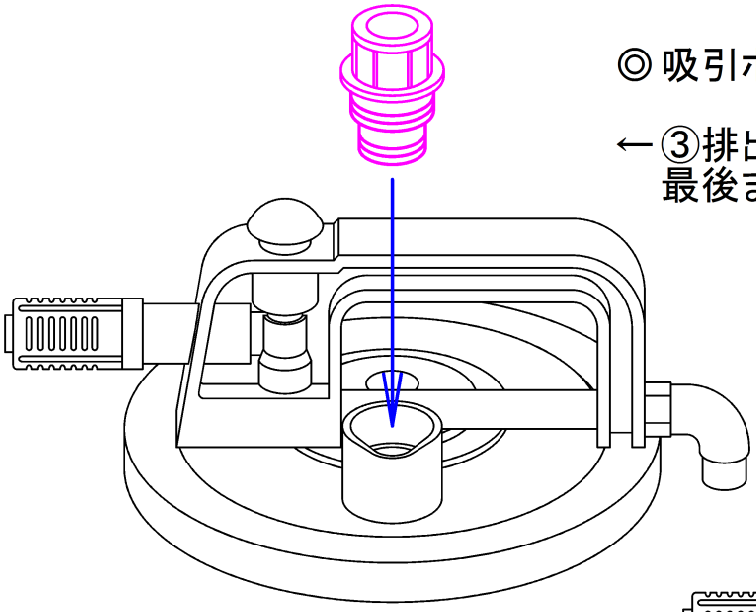
※手動ポンプのボタン※

・ ポンプ横にあるボタンはタンク内の液が満タンになるとハンドルがロックするので、ボタンを押す事でハンドルを下まで下げる事が出来ます。



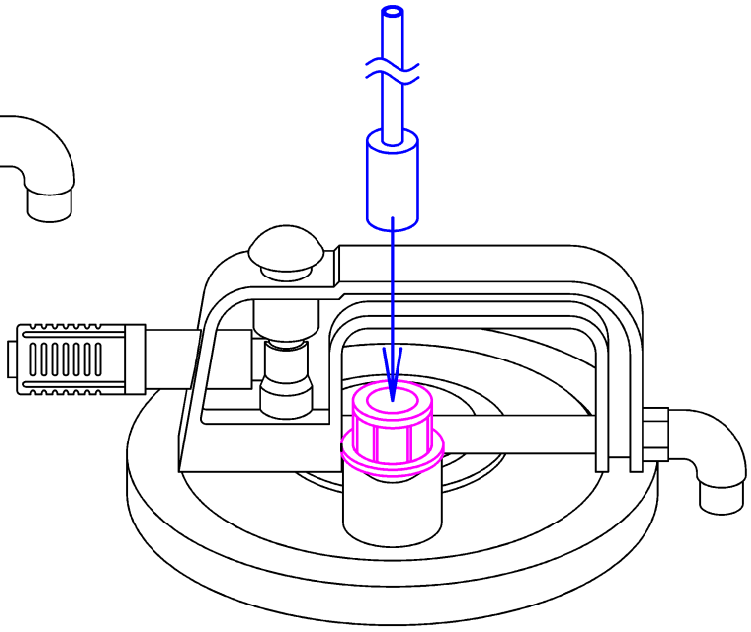
⚠吸引時の注意事項⚠

※吸引作業時には下記の部位を確認し負圧のエアーが逃げない様に注意して
ご使用下さい。



◎吸引ホースをしっかりと接続します。

←③排出口に④ノズル差込キャップをしっかりと
最後まで差し込みます。



→⑩メインホースを根元までしっかりと
差し込みます。

◎タンク内加圧防止弁のOリング部をエアーガン等を使用し汚れ等を除去して隙
間が無い様にして下さい。

